意見書案第5号

沖縄戦の歴史と沖縄の人々の思いに真摯に向き合うことを求める意見書案を提出するについて

宇治市議会会議規則第14条第1項の規定により、見出しの議案を別紙のとおり提出する。

令和7年6月30日提出

提出者 宇治市議会議員 宮本 繁夫

同 坂本 優子

同 山崎 匡

同 大河 直幸

同 徳永 未来

同 谷上 晴彦

同 佐々木 真由美

宇治市議会議長 木本 裕章 様

沖縄戦の歴史と沖縄の人々の思いに真摯に向き合うことを求める意見書

今年5月3日、那覇市での、自民党の西田昌司参議院議員の沖縄戦や「ひめゆりの塔」の展示、沖縄の戦後教育をめぐる発言に対して、沖縄の人々をはじめ、多くの国民から非難の声があがるとともに、沖縄県議会などが抗議決議をあげている。

昭和20年3月26日慶良間列島に上陸した米軍は、4月1日に沖縄本島に上陸を開始し、沖縄での地上戦が始まった。この戦闘において沖縄は国内最大の地上戦を経験し、一般住民約10万人を含む約20数万人が亡くなられた。

沖縄戦では旧制中学校や旧師範学校の生徒たちが、ひめゆりをはじめとする学徒隊や鉄血勤皇隊などとして戦場に駆り出された。住民が避難していた本島南部に日本軍が撤退した結果、軍民混在の状況のなか、住民を巻き込んだ激しい地上戦となり、沖縄県民の4人に1人の命が失われた。

沖縄戦においては多くの京都出身者が犠牲となった。昭和39年に激戦地となった嘉数の丘に「京都の塔」が建立された。「京都の塔」は、当時、府町村長会会長だった野中広務元官房長官らの尽力により建てられた。野中氏が恒久平和と沖縄の人々の思いに心を寄せてきたように、戦後、行政や民間問わず、党派を超えて沖縄と京都の人々は、平和と文化の友好の絆を深めてきた。

本市と沖縄県那覇市とは、紫式部と首里城がデザインされた2千円札の発行を機に平和交流を深め、平成16年には宇治市長からの要請で、沖縄戦で被災した首里城公園の石が那覇市から本市に贈られ、当時の翁長雄志那覇市長から、「この石に、悲惨な戦争の記憶を決して忘れず、二度と戦争を起こしてはならないという決意を込め、一刻も早く恒久平和が実現されることを、宇治市民のみなさんとともに願っています」とのメッセージが寄せられた。

平成24年には宇治市は那覇市との災害時相互応援協定書を締結している。

多くの方々が犠牲となり、筆舌に尽くしがたい苦難を経験された沖縄の人々の思いに対し、私たちは真摯に向き合うことが必要である。また、悲惨な経験を風化させることなく、次の世代に継承することが重要である。

よって、国におかれては、悲惨な沖縄戦の歴史と沖縄の人々の思いに真摯に向き合い、戦争の惨禍を二度と繰り返すことがないように施策を進めることを強く求める。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和7年6月 日

京都府宇治市議会議長 木本裕章

衆議院議長 額賀福志郎様
参議院議長 関口昌一様
内閣総理大臣 石破茂様

総務大臣 村上 誠一郎 様
外務大臣 岩屋 毅 様
防衛大臣 中谷 元 様
内閣官房長官 林 芳正 様
内閣府特命担当大臣 伊藤 良孝 様
(沖縄及び北方対策担当)